
テニスの王子様

アルトアイゼン・リーゼ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

テニスの王子様

【Nコード】

N7555X

【作者名】

アルトアイゼン・リーゼ

【あらすじ】

アメリカで活躍する名テニスプレイヤー 帝 神鎧
越前リョーマの親友であり規格外すぎる男
そんな彼が日本の青春学園にやって来た

缶当て

ある日日本にある少年が降り立った

黒いシャツに青いジャケットを着用しジーゼンを履いている

黒と青のテニスバックを背負いサングラスをかけている

背は169ほど

少年は歩き出しタクシーに乗り込みあ自宅である場所に向かう

そこには上級の2階建ての家があった

金を払い鍵を開け家に入り

1分後学生服姿で出てきた

現在時刻は7時50分

テニスバックを肩に掛け学校に向かう

彼が向かう学校は青春学園

「・・・中学校なんてめんどいけどあいつがいればましだろ」

ツとつぶやく

彼の家の表札には 帝と出されていた

彼は主にアメリカやイギリスで活躍しているテニスプレイヤー

帝 神鎧

だが日本ではまだ無名

神鎧サイド

俺は青春学園に着くと自分のクラスをさっさと見つけ

自分の席に着いた

他の女子生徒の目が明らかに俺に向いている

そんなにオッドアイが珍しいかよ

左右非対称の色の目

右がエメラルドグリーン

左がサファイアブルー

俺的にはこの目は気に入っている

今は亡き父と母の目の色を受け継いだのだから
つつつか早く終れ・・・暇だ・・・

「ねえ神鎧」

「？」

俺の名を呼ばれたので横を見ると俺の親友

越前 リョーマが居た

「同じクラスか」

「みたい」

「まあ楽しめるかどうか分からんが適当に行こうぜ」

「俺もそのつもり」

そついつて俺たちは互いの拳をぶつけ合う

やはりこいつとは気が合う

最高の親友だ

「つてかテニス部いかね？」

「んだもう行って良いのかよ？」

「みたい」

「んじゃ行くかプリンスよ」

「分かったよゴット」

互いに云われている名前を口にする

席を立とうとすると横からサルみてえな奴が声をかけてきた

缶をはじく

「「100球当てたら100万くれんの?」くれんのかよ?」

一部違うが完璧にハモる

だが俺でもリヨーマでもないスマッシュが缶を吹き飛ばした

「おお!ラッキー!当たっちゃった!」

後ろには黒髪でツンツンの奴が居た

俺とリヨーマは帰ろうとする

「ハンバーガーなら奢るけど行くか?メシ」

「行く」

メシの算段をつけながらコートを出ようとするが

「誰が帰って良いって言ったか1年坊?」

「「(また面倒事・・・飯が遅くなる・・・)」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7555x/>

テニスの王子様

2011年10月20日08時21分発行